

# 今夏の関西、大飯原発を止めても電気は足りる

今夏想定は2010年という約110年に一度の猛暑が前提。昨夏2012年の猛暑日の実績値で見るとどうなるか？

昨夏2012年の猛暑日  
7/26、37.5 の  
需要と供給の実績値  
(前衆議院議員平智之調べ)

昨夏の猛暑日  
実績需要2,672万kW  
173万kW過大な需要

昨夏の猛暑日  
実績供給3,010万kW  
78万kW過小な供給。

経産省予測よりも  
さらに251万kWの  
余裕が生まれる

今夏の需給見通し(8月:原子力の再起動がない場合)

	①昨夏想定	②今夏想定	差分 (②-①)	備考
供給力-需要 (予備率)	▲445 (▲14.9%)	87 (3.0%)		(凡例) ☆ 計上の考え方 ○ 昨夏との差分
需要	2,987	2,845		○ 読取装置の誤込み(▲117-▲268)等による差分
供給力(合計)	2,542	2,932		
原子力	0	236		
水力	203	205		
火力	1,336	1,478		
揚水	0	420		
新エネ	0	0.3		
他社・融通	644	591		
他社	522	525	+3	☆太陽光は高需要発生日の下位5日の平均から算定 ○固定買取制度による至近の普及状況等による増(+16)
水力・揚水	67	68	+1	☆経済性を考慮し、必要予備力確保までの調達を計画 ○自家発電からの調達の減(▲14)
火力	451	436	▲14	○応援融通の減(▲50)等
新エネ	5	21	+16	
融通等	121	66	▲55	

## まとめ

- 政府予測は大飯原発がないと5.2%不足
- 実績値なら大飯原発を止めても3.8%余裕
- 政府予測は大飯原発を続けるための誘導
- 地震がなくても津波がなくても、
- SCCや減肉の危険性は常に存在
- 大飯原発はいますぐ運転を止めるべき

大飯原発停止しても  
予備率3%は  
クリアする

○今夏は、想定需要2,845万kW(1日最大電力・H22年度並の猛暑)に対して、最低限必要な予備力3%となる、供給力2,932万kWを確保できる見通しです。